

バンクーバーに着いたときは「本当にカナダに着いたのか？」というのが最初に思ったことで、全然実感がなかったです。でも、飛行機から降り、バンクーバー空港に入ったら、英語がたくさんで、写真で見たものと同じ入国審査の場所があって、本当にカナダに着いたんだと認めることができました。エドモントン行きの便に乗ったときも窓を覗くたび、広い大地と大きな山々があり、日本ではないなというのがわかる光景が広がっていました。エドモントンに着き、ウェンディ家とも合流し、車に乗ってホワイトコートへ行っているときに、ふと周りを見渡すと、山がどこにもなくて驚きました。土地 자체が大きく違ったので驚くことばかりでした。空だけは日本と同じだったので少しうれしかったです。

次にホワイトコートの人たちと会ってみて学んだことについて述べていきます。ホワイトコートの人たちはとても元気で、フレンドリーで気軽に挨拶や会話ができます。なので話していてとても楽しいし、英会話の勉強にもなるのでとても助かっていることが多いです。日本の日常生活の中で初めて会う人と気軽に話せることが今までにほとんどなかったので、とても自分のためになることだと思います。

次に学校生活について述べます。

学校1日目は初めてだったので、楽しかったというよりは緊張と不安がずっと頭から離れなかった1日目でした。とにかく不安で仕方がなかったです。ですが、2日目になったとたん、1日の動きがわかるようになったので不安はあまり感じず、とても楽しむことができました。3日目以降はとにかく楽しかったです。友達もだんだん増えてくるし、日本のような堅苦しいこともないのでとても過ごしやすく、「留学して良かった！」と思えるようになりました。

最後にホームステイ先のことについて述べます。

ホームステイ先であるウェンディ家では、とても良くしてもらっています。会話をしている中でわからない単語が出てきたときには、電子辞書のようなもので日本語に訳してくれるし、どんどん外出にも連れて行ってくれるので毎日が楽しいです。この3週間の間でプールに2回行ったり、町の行事に連れて行ってくれたり、フットボールの試合を見に行ったり、本当に外出が多くて大変でしたが、とても楽しく過ごすことができたのでこれからも楽しいことがもっとあると思います。

以上です。植村純也

## レポート2

植村 純也

10月もあっという間に折り返しにきました。あと2週間くらいで留学も終わってしまうと思うと、なんだか信じられないです。カナダの生活にももう慣れてしまって、日本に帰ったあとに、また日本の生活に戻るには時間がかかるかもしれません。それだけ、今の生活に慣れています。10月の最初にはカルガリーへ行き、遊園地やショッピングモールに行きました。遊園地では、ジェットコースターに乗ったり、ウォータースライダーに乗ったり、高いところに行く乗り物ばかり乗りました。私は高いところがとても苦手なので、乗るたび乗るたび気持ち悪くなっていました。ちびっこ達は一つもそういうことがないので、ついていくのに必死でした。

10月には私の誕生日があり、10月8日で16歳になりました。ちょうどその2日前ぐらいに、デビッドソン家が旅行に出かけたので、私は友達の家に4日間ほどいました。なので、誕生日はその友達の家で迎えました。とても盛大に祝ってくれたのでうれしかったです。16年間で一番印象に残った誕生日になりました。その他にも、キャンプに連れて行ってもらったり、ヘリに乗ったり、ボートに乗ったり…色々なことを体験してきました。

10月に入ってからの学校生活では、いつもと変わらず、楽しく過ごしています。もう少しでこここの学校を離れることになると思うと、残念で仕方ないです。

最近、この留学を通して思い始めていることがあるのですが、カナダの学校と日本の学校で絶対的に違うことは規則です。私は今まで日本のような学校の規則が社会に出る準備に大きく役立つと思っていたので、カナダの学校で生活してみて「こんなでいいの？」と思うばかりだったのですが、日本とは違って、あれはだめ、これはだめといちいちうるさくないので、のびのびと生活でき、逆にこれはこれでいいのかもしれないと思い始めています。授業中も日本のように先生の声しか聞こえなくて、とても静かではなく、常にぎやかで、なおかつ授業内容にも積極的なので、日本よりも授業を受けていて楽しいです。いちいち規則にとらわれず、のびのびと授業を受けられる環境というのも必要なかもしれません。以上です。

私の2か月間の留学もあと数日で終わりを迎えます。この2か月間はあっという間でした。ついこの前中間報告をしたと思ったら、いつの間にか1か月がたち、最終報告まで来てしまいました。

10月に入ってからの1か月間でも、9月と同じ色々なことがありました。まず、私のホストファミリーであるデビッドソン家の人たちが旅行へ行き、誰もいなくなってしまったため、私は友だちの家に4日間いることになりました。その4日間の間に、ちょうど私の誕生日があり、とても盛大に祝ってもらいました。私は16歳になりましたが、16年間の誕生日の中で一番印象に残り、そして一生忘れてはいけない16歳の誕生日になりました。とても貴重な時間でした。

その後も色々体験させてもらいました。キャンプへ行ったり、ちょっとしたドライブに行ったり、ある理由でヘリコプターに乗ったり、友だちとゲームをしたり、4日間の短い間でしたが、色々なことを体験することができました。

10月に入ってからの学校生活は、今までと変わらず毎日が楽しく、あっという間です。ヒルトップハイスクールは、毎日5時間授業で、毎日同じ授業をやります。私がとっている授業は体育、ドラマ、英語、美術の4つで、これ以外の授業はやりません。そして毎日ローテーションで、どれか1教科を2時間やります。体育が2時間ある日は体育、ドラマ、体育、英語、美術という時間割になります。英語が2時間ある日は、体育、ドラマ、英語、美術となります。昼休みが3時間目の終わりにあるので、同じ教科が続いてもすぐには始まらないので、連続して同じ教科をやったという実感はありませんでした。日本では考えられないような学校生活ですが、なかなか留学しないとできない体験なので、とても貴重な学校生活でした。

この留学を通して私が学んだことは数知れません。私の考えていた留学とはほとんど違ったのでなおさら学ぶことは多かったです。その学んだことの中でも、特にこれから役立つことは「自分から動く」ということです。今回の留学で特にその重要性がわかりました。「何かわからないことがあるけど、きっと誰かが助けてくれるだろう」これが留学前までずっとと思っていたことでした。ダメだということはずっとわかっていたつもりでしたが、なかなかその一歩目が踏み出せず、いつもこの考え方で物事を進めていました。まだ高校生なので、これでも通用しますが、社会に出たり、今回のように留学した時は、それが通用しないので困ったこともあります。なんでも自分からわからないことを聞かなければならなかっただし、自分から動かなかっただから相手が困ったこともあります。なので、この留学で特に学んだことの1つは「自分から動く」ことです。他にもこれから役に立つことを学ぶことができましたが、特に一番私にとって重要であるこのことを述べました。なんでも自分から動かないと後で自分が困ることや、誰かの助けを待っていても誰も助けてくれないということがよくわかった留学でした。これらの生活では、これら学んだことを活かしつつ、自分の欠点をなくしていく、日本でもまた楽しく毎日を過ごせるように、色々なことに挑戦していきたいです。